



武田 丈 (たけだ じょう)さん

二十年以上前から大学でLGBTQ+関連の教育に取り組む武田丈さん(関西学院大学人間福祉学部教授)に教育現場での取り組みについてお話をうかがいました。

怒らず、協働しつつ、エビデンスを示しつつ 大学を変えていきたい

✚ エイズ対策のキーパーソンたち



発行：MASH大阪
〒530-0027 大阪市北区堂山町11-2 堂山山よしビル4F
☎06-6361-9300
https://www.dista.osaka/

この資料は、大阪市のMSM向け HIV予防啓発広報紙作成事業で制作されました。	
冬号の紙面VIEW	
2面	時事ネタWATCH
4面	男朋友
6面	知られざる偉人伝「(S/N)の誕生」
7面	海外男街通信「ニューヨーク(後編)」

MASH大阪(以下M)：研究者になるきっかけは？

武田(以下、武)：大学教員だった父の影響が大きいですね。父は社会福祉が専門で、カウンセリングも研究していました。あとは、中高生の頃にお世話になった大学生のキャンパ・リーダーやクラブのコーチに憧れて、若い人を教育する仕事に魅力を感じました。そんなこんなで、大学では社会福祉を専攻し、不登校児の支援というテーマに取り組みました。その後博士号取得のため米国に渡り、在米日本人のメンタルヘルスというテーマに取り組むことになりました。

M：在米日本人やその家族のメンタルヘルスをどうケアするか、ということ？

武：いえ、むしろ在米日本人コミュニティが共通して抱える課題は何か、課題を解決に導く社会の資源や福祉制度にどのようなものがあるか、を調べたうえで課題解決を導

M：それがLGBTQ+コミュニティへの支援につながっているのですか？

武：実は留学直前に、一年間テキサスに滞在していた両親が帰国したのですが、母から「今度テキサスでお世話になった日本人でゲイの美容師のアキさんが日本に来るから、一杯アテンドして頂戴」という指令が届きます。結局それが、僕が出会った最初のゲイ男性となりました。アキさんには米国留学中に大変お世話になったのですが、彼のおかげで自分の差別意識に気付くことになりました。それまで僕にとってゲイという存在は「別世界の1人」だった。それが、たまたまのことで、「身近にいる、ごく当たりまえの存在」になったわけです。

M：やはりマイノリティであることをオープンにするのは、

社会を変える力になりうるのですか？

武：二〇〇〇年に社会学部社会福祉学科の教員になり、早速「国際福祉論」という授業で少しづつLGBTQ+のことを取り上げていきます。二〇〇一年、モントリオールのソーシャルワークの国際学会では日本のLGBTQ+の状況を報告する人を探すように依頼を受け、そのプロセスでゲイをオープンにしている医療関係者と出会うことができました。二〇〇三年には、一般教養科目「ヒューマン・セクシュアリティ」を立ち上げ、六年後には人権教育科目「セクシュアリティと人権」に発展させ、学内外の当事者や専門家たちと協働しつつ運営しています。内容はセクシュアリティ全般・障害者のセクシュアリティ・エイズ教育・ジェンダー教育などです。

M：受講生の反応は？

武：初めの頃は「コンドームが配布されるヤバイ授業」、一部の女子学生からは「性器が提示されるのは、セクハラでは？」といった反応がありました。が、二〇一五年あたりから、冷静に受けとめる受講生がほとんど。EテレがLGBTQ+を積極的に取り上げたこと、マッコ・デラックスら当事者の露出がマスメディアで定着したことが影響しているのかな、と。ただ、最

近のトランスジェンダーのトイレ使用の問題をめぐって、受講生から攻撃的な質問が出ることもあります。その背景には、自民党内での的外れな議論にマスメディアがきちんと批判できていないことや、一部トランスヘイターなフェミニストが議論に加担していることがあげられます。

M：この領域における大学の課題は？

吉：若手の研究者が増えていますが、必ずしも大学での雇用結びついていません。先進的な取り組みを行っているICUや東京大でも期限付き雇用が主流です。

もう一つは、ワンストップのセンターを設置することで、辛い状況を聴かされるたびに、「大学を変えたい」「ここに行けばどんな問題にも対応してくれる、と思われるようなセンターをつくりたい」という思いが募ります。しかし大学に対して怒りをこめて運動するとバーンアウトしてしまうので、冷静に、エビデンスを示しつつ、そして他大学と情報共有しつつ進めたい。そのために、目下、当事者と協働することのメリットをソーシャルワークの視点から研究論文にまとめていくところなんです。

M：興味深いお話、どうもありがとうございました。

12月1日は「世界エイズデー」です

こちらのHIV検査場はすべて無料・匿名です 大阪府版(2023年10月20日現在)

エイズの知識を深め、HIV検査に行ってみませんか? 以下の検査施設では、無料・匿名でHIV検査を受ける事ができます。
※新型コロナウイルス等の影響により検査実施状況が変更になる事がありますので、各保健所へご確認ください。

[大阪市]	
北区役所 保健福祉センター 大阪市北区扇町2-1-27 ☎06-6313-9882	月・金曜日/9時30分~11時 水曜日/14時~15時30分
中央区役所 保健福祉センター 大阪市中央区久太郎町1-2-27 ☎06-6267-9882	火・水・木/9時30分~11時 第1金曜日★(HIVのみ)/14時~15時
淀川区役所 保健福祉センター 大阪市淀川区十三東2-3-3 ☎06-6308-9882	月曜日/14時~15時30分 火曜日/9時30分~11時
chotCAST 大阪検査相談・啓発・支援センター 大阪市中央区東心斎橋1-7-30 21心斎橋ビル4階 火・木・土・日曜日 ☎06-4708-5035 ※いずれも検査実施時間帯のみ 【木曜日、土・日曜日はWEB予約】 https://chotcast.com	火曜日/18時~19時50分(先着50名) HIV・梅毒・B型肝炎 水曜日★/18時~19時30分(先着50名)(予約制) HIV・梅毒・B型肝炎 土・日曜日★/14時~15時30分(先着50名)(予約制) HIV・梅毒・B型肝炎
[堺市]	
堺保健センター(堺市役所敷地内) 堺市堺区南瓦町3-1 ☎072-238-0123	9時15分~10時45分 (第4水曜日は9時30分~11時)
中保健センター 堺市中区深井沢町2470-7(中区役所内) ☎072-270-8100	第3月曜日/9時30分~11時
東保健センター 堺市東区日置荘原町195-1(東区役所内) ☎072-287-8120	第4火曜日/9時30分~11時
西保健センター 堺市西区鳳東町6丁600(西区役所内) ☎072-271-2012	第1火曜日/9時30分~11時
南保健センター 堺市南区桃山台1-1-1(南区役所内) ☎072-293-1222	第3水曜日/9時30分~11時
北保健センター 堺市北区新金岡町5-1-4(北区役所内) ☎072-258-6600	第2火曜日/9時30分~11時
美原保健センター 堺市美原区黒山782-11 ☎072-362-8681	第4木曜日/9時30分~11時
サンスクエア堺 堺市堺区田出井町2-1 サンスクエア堺B棟地下1階 第5会議室 ☎072-222-9933 (堺市保健所 感染症対策課(開庁時間のみ))	奇数月・第3水曜日 18時30分~20時(先着20名) HIV・梅毒
堺市保健医療センター1階★ 堺市堺区甲斐町東3-2-6(保健医療センター内) ☎072-222-9933	偶数月・第3木曜日/10時~11時(先着20名)
[東大阪市]	
東保健センター 東大阪市旭町1-1 ☎072-982-2603	第3金曜日/9時30分~11時
中保健センター 東大阪市岩田町4-3-22-300 ☎072-965-6411	第2・4水曜日/9時30分~11時
西保健センター 東大阪市高井田元町2-8-27 ☎06-6788-0085	第2・4月曜日/9時30分~11時

エイズ、性感染症について、気軽にご相談ください!

HIV陽性とわかった時、またエイズや性感染症について相談したり、情報が欲しい時、大阪には相談できるサービスや支援があります。気軽にお問い合わせください。

HIV検査や性感染症などに不安がある方

性感染症について知りたい、相談や心配事がある、そんな方のご相談ください。お話を聞きながら一緒に考えるお手伝いをします。電話相談と対面相談を行っています。相談員にはゲイの人もいて安心です。

MAP

住所：大阪市北区堂山町11-2 堂山山よしビル4F
☎06-6361-9300
木曜~日曜/17:00~22:00(月・火・水曜休館)
https://www.dista.osaka/

相談がしたいHIV陽性の方

SO・SO・SO 総合相談窓口

www.charmjapan.com/charmsoudan/

HIV陽性のゲイ・バイセクシャル男性

Cafe・Bar an opportunity
~ただのきつけ~

詳細はこちら <http://www.60.atwiki.jp/anopportunity/>

エイズに関する様々な相談をしたい方

エイズ予防財団 ☎0120-177-812 (無料)

エイズに関するご相談を電話で受け付けています。お気軽にご連絡ください。

※携帯電話からは、03-5259-1815まで(有料)
月曜~金曜/10:00~13:00、14:00~17:00(祝日は除く)

[南界堂通信第45号 編集後記]

南界堂通信のX(旧Twitter)をフォローして最新情報をチェック!

@namkaido

●9月17日、さっぽろレインボープライド2023のパレードに参加。札幌の中心部、大通公園や時計台の前を練り歩く。テーマ「#雨上がりの札幌は美しい」の意味とあわせ、感慨深く思う。(泰平)

●ネット詐欺で結構なお金を騙し取られました。ネットサーフィンしていると突然大きな音とともに「ウイルスに感染しています。こちらの電話へ」。今思うと、対策は「パニックにならないこと」「すぐ電源を落とすこと」この二つ。超高額の授業料でした(涙涙涙)。 (哲)

●10月に扇町公園で関西レイボフェスタが開かれました。ステージのラストはのりピーこと酒井法子さんが登場。「着いうさぎ」とか往年のヒット曲を披露し、50歳を越えても若く綺麗でした(笑)。(大畑)

薬食男源

healthy Food, healthy Body for gay

1. 発酵食品

韓国には伝統的な発酵食品がたくさんあります。キムチは唐辛子で漬け込んだ韓国伝統の発酵食品です。唐辛子の辛味成分カプサイシンは体内に入ると交感神経に働きかけ、体を温めてくれます。調味料の豆板醤・コチュジャン、魚を発酵させたチャンジャ、お酒のマッコリも発酵食品です。発酵食品は発酵する過程で、乳酸菌が増殖し腸内環境も整えてくれます。



プロフィール ● 藤垣風未
株式会社フィロソフィア
都島センター薬局の管理栄養士
薬局では患者さまの栄養指導を
随時受け付けております。個人的
に栄養指導を希望される方は、
いつでもご相談ください。

朝晩、冷え込む季節になりましたね。室内外の気温差に体調を崩していませんか？
コロナ禍が明けてきて海外旅行する方も増えてきました。
日本から2時間ほどで気軽に行ける旅行先として人気の韓国。
今日は、韓国料理についてお話ししたいと思います。

韓国料理の特徴とは？

2. 野菜が豊富

韓国で料理を注文すると、ナムルなど野菜たっぷりの前菜が運ばれてきます。焼肉を食べるときも、サンチュ(サニーレタス)やゴマの葉に巻いて野菜と一緒に食べます。普段からたくさんの野菜をとる習慣があり、国民1人あたりの年間の野菜消費量が多い国と言われています。また、韓国にはヘルシーな豆腐を使ったスンドゥブやキムチチゲなどのスープメニューがたくさんあります。スープには、心臓を強化する朝鮮人参、疲労回復を助けるナツメといった漢方も使われています。

3. 薬念

薬念(ヤンニョム)とは、韓国における薬味・香辛料、調味料の総称です。韓国料理の特徴は、さまざまな食材・調味料・香辛料が作り出す味にあります。韓国料理に用いる薬念(ヤンニョム)は、食塩、砂糖、しょうゆ、味噌、塩辛、ごま、ごま油、唐辛子、こしょう、にんにく、生姜、ねぎ、香菜、食酢などです。なかでもにんにくの消費量は世界一といわれており、あらゆる韓国料理に使われています。にんにくは強い殺菌作用があり、疲労回復にもなります。

この季節にぴったりな韓国料理を紹介したいと思います。

【スンドゥブ豚キムチチゲ(2人分)】

- ① 白ねぎ(1/2本)は1cm幅に斜めに切ります。ニラ(4本)、豆腐(1丁)は食べやすい大きさに切ります。
- ② 鍋にごま油(小さじ2)と豚バラ肉(150g)を入れて中火で炒めます。
- ③ ②に火が通ったら、①の白ねぎとキムチ(150g)を加えて炒めます。
- ④ 味噌(大さじ2)、コチュジャン(大さじ1)、醤油(大さじ1)、鶏ガラスープの素(小さじ2)、水(500ml)を加えます。沸騰したらニラと豆腐を入れ、煮込んだら出来上がり。お好みで卵を落として食べても美味しいです。温かいスープは体を温め満足感にもつながります！



寒い時期は体を温めようとエネルギーを消費しやすくなるため、毎日きちんと食事をとることが健康的に過ごすためのポイントになります。最近ではコンビニでもビビンバなどが売られています。野菜も一緒に味わえる韓国料理を食べて寒い冬を一緒に乗り切りましょう！

大切なことは…

当院がHIVの曝露後予防(Pre-Exposure Prophylaxis)以下、単に「PrEP」を開始したのは二〇二二年、今から十一年前に遡ります。当時、日本ではまだPrEPについてあまり知られていませんでしたが、外国人の間ではすでに日常的な予防法となっていました。そこで、ツルバダの先発品を使って外国人を対象にPrEPの処方を開始したので、一錠四千円以上もしましたが、それでも希望する人がいて、また国によっては保険適用になり一錠百円程度で処方できたケースもありました。

かし、その後入手が困難となり、二〇二三年三月に再度関東信越厚生局に問い合わせたところ「日本に先発品のある抗HIV薬の輸入は認めない」と言われました。ですが、その後再び輸入が認められるようになり(この理由は今も不明)、現在はデシコビの後発品を中心としたPrEPを処方しています。このような複雑な経緯があり、再び輸入禁止と言われる可能性もあるのが日本のPrEPの現状です。

プロフィール ● 谷口 恭



(医) 谷口医院院長。大阪公立大学総合診療部非常勤講師の他、タイのエイズ孤児などを支援するNPO法人GINA代表。著書に『今そこにあるタイのエイズ日本のエイズ』、『総合診療医がみる「性」のプライマリ・ケア』など。

谷口医院ではPrEPを長く続けている人には定期的な骨量測定を勧めています。また欧州では、MSMの間でPrEPが普及しHIV感染者は減ったものの代わってC型肝炎ウイルスHCV感染が増えたという皮肉な事態が起こっています。HIVのPrEPはHIVの予防薬ですがHCVに効果がないのは当然なのですが、HCVはノーマークになってしまうようです。また、欧州では on demand PrEPも有効とされていますが、米国では daily PrEP のみが推奨されています。このあたりについてもきちんと理解した上で、質問や相談があれば直ちにかかりつけ医を頼るのが上手にPrEPを続けるコツです。

追っかけエイズ

PrEPは「骨量低下」「HCVのリスク」など危険性を理解しよう

時事ネタ WATCH

中年MSMと暮らし



同性婚訴訟、名古屋地裁、福岡地裁でも判決が5地裁が出揃う

本誌二六号、三四号、三五号、四〇号、四二号でも取り上げてきた「結婚の自由をすべての人に」裁判、本年五、六月に、名古屋地裁、福岡地裁で判決が出され、これで全国五地裁の一審判決が出揃いました。

五月の名古屋地裁判決は、同性間の婚姻を認めていない民法及び戸籍法の諸規定は、「同性カッブルに対して、その関係を国の制度によって公証し、その関係を保護するのにふさわしい効果を付与するための枠組みすら与えていないという限度で、憲法二四条二項に違反するものである。」とし、それと同時に「憲法十四条一項にも違反するものといわざるを得ない。」と判断しました。

先の(最初の)札幌判決は、憲法十四条一項違反としましたが、加えて、二四条二項にも違反すると言いつつ切ったのは、この名古屋地裁判決が初めてです。

続いて、六月の福岡地裁判決は、「本件諸規定の下で原告ら同性カッブルは婚姻制度を利用することによって得られる利益を一切享受できず法的に家族と承認されないという重大な不利益を被っていること、婚姻制度は異性婚を前提とするとはいえ、その実態が変遷しつつあること、婚姻に対する社会通念もまた変遷し、同性婚に対する社会的承認がまだまだ十分には得られていないとはいえ、国民の理解が相当程度浸透されていることに照らすと、同性カッブルに婚姻制度の利用によって得られる利益を一切認めず、自らの選んだ相手と法的に家族になる手段を与えていない本件諸規定はもはや個人の尊厳に立脚すべきものとする憲法二四条二項に違反する状態にあると言わざるを得ない。」と判断しました。

続く控訴審(高裁の審理)では、先頭を走る札幌高裁も審理を終結見込みで、いよいよ、裁判所の判断の積み重ねが進むこととなります。

速報

「梅田政宏さんと『南界堂通信』」展

「株式会社じじいる家族」を地元の西成区で立ち上げ、オープンなゲイとして、ケアマネージャー(介護支援専門員)として活動し、昨年急逝された梅田政宏さんを偲んで、「梅田政宏さんと『南界堂通信』」展が、九月二十一日〜十月十五日、distaで開かれました。梅田さんは、本誌やオフ企画「南界堂茶会」にも出演し、LGBTQが病気になる時や年を取った時の様々な課題について、わかりやすく解説してくれました。今回の展示では、梅田さんが登場した『南界堂通信』の記事や、梅田さんの活動の写真を展示しました(多くの反響を頂いていますので、次号で紹介予定です。)



ご案内 京都で「エイズ学会市民フォーラム」が開催

本年12月3日~5日に京都で日本エイズ学会が開かれる(本誌43号の大会長・高折先生インタビューもご参照)にあわせて、12月3日(日)に「エイズ学会市民フォーラム+People2023+」が開催されます。「アート作品の上映とHIV/エイズの40年の歴史やそこに生きた人たちと出会うことで、HIVについて知り・考え・つながることを目指しています。」とのこと。

- 会場：京都アバンティ9階・龍谷大学警都ホール校友会館 (JR京都駅八条口)
- 入場無料・予約不要(整理券が必要)
- 展示と交流
《HIV/エイズ40年の歴史とこれからを知る・考える・つながる》ホールロビーにて15:00-21:00
- ビジュアル・エイズとS/N
・ビジュアル・エイズ短編映像集《Everyone I Know Is Sick》
上映：15:30-17:00
・ダムタイプ《S/N》記録映像上映とトーク
トーク：17:30-18:40 / 上映：19:00-20:20
(※《S/N》については、本誌6面でも詳しくご紹介していますので、ご参照を)

男 for you 朋友

ポップカルチャーと LGBTQムーブメントをどうつなげるか？ 「おっさん好き」を自認するゲイライター・編集者として、書籍、雑誌、ウェブメディアなどで幅広く活躍する木津毅(きづつよし)さんに突撃インタビュー!!



があり、その後本格的にインタビューを行い、本にまとめました。
M: そうですね、「ニュー・ダッド あたらしい時代のあたらしいおっさん」を出版されましたが、執筆の動機は？

MASH大阪(以下M): 出身は？
木津(以下、木): 堺市の泉北ニュータウンです。アラフォーの今もそこで暮らしているんですが、彼氏が北区に住んでるので、この界限にもよく来ています(笑)。
M: おっさん好きに気付いたのは？

木: 小五か小六の頃ですね。とにかく映画が何よりも好きで、テレビやビデオで見まくっていましたが、中でもロバート・デ・ニーロが大、大、大好きでした。暑苦しく、コワモテで、狂気じみたところに惹かれてました。今考えると、自分にはな



い男らしさへの憧れだったのかな?という気もしますね。
M: 中学・高校・大学時代は？
木: 明るく、積極的なほうだったと思います。学校行事には進んで参加してましたし。ただ、カミングアウトはごく親しい友人だけに限ってましたね。高校が進学校だったのでそれなりに受験勉強して、大阪大学の文学部に入學。演劇学を専攻しました。能・歌舞伎・文楽などの古典演劇からインデペンデントな小劇場まで幅広く学びましたが、打ち込んだのは映画評論の研究でした。それができる環境もありました。
M: 映画好きを買いたわけですか？
木: そうなんです、就職で失敗してしまいました。出版社を志望してたんですが、力不足でした。その後フリーターをしながら、チャンスがうかがうことにしました。三年ほどたって、クラブミュージックに強い『e.e.king』というウェブメディアから、インディ・ロックのアルバムレビューを書

く仕事をもらいました。
『e.e.king』は、野田努さんが編集長を務めるウェブマガジンで、英国在住のブレイディみかさんや皆さんご存じの田亀源五郎さんの書物出版したりもしています。私は映画に負けず劣らず音楽が好きでしたので、最初は英国や米国のエレクトロニック・ミュージックやロックのアルバムをレビューする記事を書いていましたが、その後、映画のレビューも書くようになりました。記事を執筆する際、オープンなゲイとして仕事はしなかったし、編集長の野田さんも「木津さんの視点が見えないとおもしろくないよ」と言ってくれたので、ゲイの視点を取り入れて書くようにしています。そうしたことが可能になった背景には、クラブカルチャーとゲイカルチャーの間にはもともと親和性があったことが大きかったのかもしれない。
『e.e.king』の仕事と前後して、大阪の雑誌『カジカジ』の映画レビューのページも担当するようになりました。こ

れは dista でCAMPEON という映画のイベントをやっておられる寺田さんから引き継いだ仕事です。あと、老舗の音楽雑誌『ミュージック・マガジン』で「LGBTと音楽」という特集が組まれたことがあって、そのときにお声がけいただきました。そのご縁で、いま「LGBTQ+通信」というコラム記事の連載を担当しています。
M: えっ、その記事、以前から読んでましたけど、木津さんだったんですね。「目配りのきいた文章だなあ」と思いながら読んでました。あと、田亀さんは二〇一七年に『e.e.king』から『ゲイ・カルチャーの未来へ』を出版されていますが、編集を担当したのは木津さんですか？
木: そうなんです。ゲイを公言する米国のミュージシャン・ジョン・グラントさんと田亀さんの対談をセッティングした縁で田亀さんとゲイカルチャーについてじっくりお話しする機会

があり、その後本格的にインタビューを行い、本にまとめました。
M: そうですね、「ニュー・ダッド あたらしい時代のあたらしいおっさん」を出版されましたが、執筆の動機は？
木: ジェンダー格差を語る際、とりわけSNS上では中年男性の有害性が単純化されて語られるがゆえに、無用の対立が生まれます。それがあって、中年男性を意固地にしていない部分もあると思うんですよ。そんな中、ジェンダーやセクシュアリティの格差をふまえたうえで、他人を責めたり、自分を責めたりしない語りをなんとか生み出せないものかと考えたのが執筆の動機です。そこで、おっさん好きのゲイとしての自分の視点を入れようと考えました。
LGBTQ+の存在はアタリマエになりつつありますが、当事者目線の語りはまだ足りないと感じています。今後も、おっさん好きのゲイの目線から、映画や音楽といったポップカルチャー批評とLGBTQ+をめぐる議論に積極的に関わりたいと考えています。
M: 自分の目線をはっきり打ち出すという点で、前号で紹介した柳淳也さんの『揺さぶる経営学』と一脈通じるものがありますね。興味深いお話、どうもありがとうございます。

南 界 堂

中高年世代の語り合う会

茶会

第十七回は「終の住処その2」と題し、シェアハウスを経営していた堀あきこさん、外国人支援、HIV陽性者支援のCHARMの青木理恵子さん、釜ヶ崎で活動している小手川望さんをゲストに迎えて九月二十三日に開催されました。

多くの方にご参加いただき、久しぶりにお茶菓子を用意しての茶会となりました。
ジェンダー、セクシュアリティの研究者である堀さんは二〇二二年七月から二〇二三年二

月まで京都でシェアハウスを経営していたらしいまま



堀あきこさん

この二月に閉じられました。青木さんは外国人を視野に入れながら、HIV陽性の人たちが安心して暮らせるような活動をされてきました。支援している人達の大半は単身者ですが、二十年も経つと状況がかなり変わり、だんだんと体の調子が悪くなってきたり動けなくなってきたりした方も出てきます。数年前から訪問プログラムを行い、定期的な訪問して様子

を聞くなどしている。HIVの拠点病院に行くのにちょっと距離がある人が多く、一日かかるので介護ヘルパーの方とかは対応できない。そういう場合に、CHARMのメンバーと一緒に病院に行くことも。また、三ヶ月程前から集まる会をし、お互いの情報交換をするということを始められました。一つの共通性を持つている人達が集まり、また集まることで繋がって、仲間となることで少しでも



青木理恵子さん

助け合ったり協力するというような関係性を作ればいいのかなどという風に思っているそうです。
小手川さんは秋の茶屋地域周辺まちづくり合同会社にお勤めですが、その地域でボランティアな活動をされています。その一つ、釜ヶ崎見送りの会という身寄りのない一人暮らしの方が亡くなった時、葬儀を営む互助の会。二〇一三年にある僧侶を中心に活動が始まり、事務局にもう一人司法書士の方がいて、会員二百人ぐらい。全然知らない人の葬儀に出るのはしよろがないから、二ヶ月に一回秋の茶屋地区と天下茶屋地区の二グループに分けて、ひと月ごとに交互に集会をして近況報告をするのと二ヶ月に一回お茶会をするのと季節ごとのお花見な



小手川望さん

どや総会で、会員がお互いに顔をあわせて知り合う取り組みをされています。また、年末年始の行政がしまる時に餓死させない、凍死させない活動といったことをしている釜ヶ崎実行委員会に八年以上参加されています。ここに二〇一七年にケアマネージャー梅田政宏さんが参加。労働者の問題とセクシュアリティの問題がリンクして意識されるようになったそうです。

実録! R40 物語

アラフォーからアラカン世代の皆さま、お待たせいたしました! 「あるある」「ドキッ!」「アラやだー…」といった中高年世代にドンピシャな内容を、年齢や個性もバラバラな作家さんたちが4コマ漫画でつづるこのコーナー。今回ご紹介するのはあすかむさんの作品です!

どいぢともいい。友。

あすかむ



作家プロフィール ● あすかむ
1988年生まれ。ゲイ。
SNSにて自主連載の漫画やイラストを投稿している。
2023年5月には吉祥寺にて個展を開催。
毎週日曜日は新宿ゴールデン街にてパチンコとして働く。
X: @asu_kam
Instagram: asu.kam88

✈ 海外男街通信

夢の国・アメリカ紀行

~NYの木々にいざなわれて~

[後編]



ニューヨークの街角で (ちょっとピンぼけ)

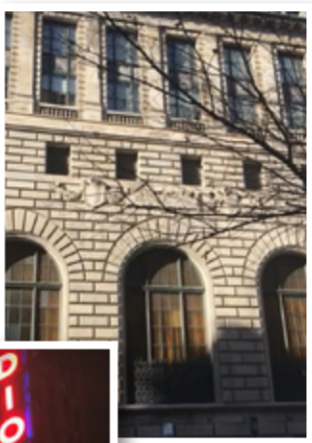
公園の中は木々にあふれ、みな想い思いの時間を過ごしている。ここはセントラルパーク。せわしい大都会ニューヨークのオアシスだ。

観光客向けの馬車が連なり、アイススケートを楽しむ家族連れも多い。日が暮れると、人通りがまばらになる。すっかり静かになった公園で、北を指指して、池に映るビル群を遠くに見ながら、森の奥へと進んでみる…。

明るい車道もあるが、敢えてShadowの中を歩こう。充電を忘れたので、そろそろ電池が切れそうだ…ここで何かトラブルがあったら誰か探してくれるのかな…などと不吉なことを思われるほどに暗い道で、櫛のような・凜とした、

周囲の物音や人影に注意しながら…。(ドキドキ) しばらくすると数人とすれ違うようになる。きつとお仲間なのだろうという感じのいでたちで、ハッテン場で仄暗く・狭い廊下を歩く時のような、ジトツとした・舐めるような視線が絡みつく。もちろん、一言も発さない。ふと気がつくとも木々にまぎれてそこかしこに男性の気配がする。(ポケモン感)

そうした中、ふわりと、香水の甘い香りがする。その香りに誘われて見てみると色っぽい目をした・いわゆる「ラティーン」系の男性がいた。少しだけ会話を交わした後、どちらからともなくハグし始めた。互いの体温が伝わり、嬉しいような・気恥ずかしいような気がして自然と笑みがこぼれる。気がつくとも二人とも少し汗ばんできた。もちろん、ハグだけで済むはずもなへ、互いの唇の中心を慰め



ホステル近くの建物(冬感)



ニューヨーク・クリスマス (Christmas in NY)



African American Flag in MOMA NYC (ニューヨーク近代美術館)

合った。遠巻きにいた人影が少しずつ集まってきて、一組ずつ、いたるところで番い始める。酒池肉林とはこのような感じかしらと思いつつ、暗闇の中、五感を総動員しながらただひたすらその瞬間を愉しんでいた。私たちのように軽めものつながりもありつつ、別の場所ではハードな・情熱的なやりとりが繰り返されていた。先ほどまでかじかんでいた手足はすっかり微熱を帯びていた。

—— 一通り愉しんだ後、バインミーを求めて歩いて行っ

た。ふわふわと、文化交流の余韻に浸りながら…

◆ ◆ ◆

最近エロ要素が足りていないわ…という声がチラホラ聞こえて来たので、私が体験したニューヨークのハッテン事情をWEB官能小説風(?)にお伝えしました。少しでもエロみを感じて頂けたなら本望系ホモです。セントラルパークの北側は有名ですが、マンハッタンにはハッテン場が一軒しかありません。その理由は、昔、ニューヨークがHIVエイズのエピソード(感染の「震源地」)だったため、公的スペースから排除されて来たという歴史的背景があるからです。他にはゲイ男性専用の裸のヨガや楽しいパーティーの募集がオンラインであ



NYC郵便局の天井とわたし

文●なかだこうじえんりけ

distal)にちょこちょこ現れては多言語を散りばめ・旅の話で盛り上がる系ゲイ。(北摂辺りで)誰よりも北歐館の再オープンを切望している。最近、シス男性(出生時に男性として性別が割り当てられ・その性別で生きたい人)の間でどうやってミソジニー(女性嫌悪)を減らせるか、Toxic Masculinity(いわゆる有害な男らしさ)に気づききっかけを作ることができるか、どうい物理をすれば相手に伝わるか考えがチホモ。近々「台湾同志遊行」、いわゆるLGBTQのパレードに参加予定。Vamos!じよいなす!お越しやす!YAAS, queen!! (おあとがよろしいようで。)…ちゅおっ

り、事前に予約・参加費支払いをしてからオフ会に入るという流れがあります。そのヨガ体験談はまた別の機会に(笑)。もしNYにお越しの際は、身の安全に気をつけて素敵な出会いを楽しんでください。それでは、hasta また、いつかどこかで。さいなら・さいなら・さいなら! (懐)

〈S/N〉の誕生 古橋悌二の遺したもの

その一

LG B T Qアートの金字塔と呼ばれるダムタイプ(のS/N)。古橋悌二が友人たちにH I V感染を伝える手紙を送り、そこからダムタイプ内外で〈S/N〉に向けての怒涛の動きが始まります。その一部始終をダムタイプの高谷史郎さんに語っていただきました。

偉人伝

知られざる



古橋 悌二 (1960-1995)

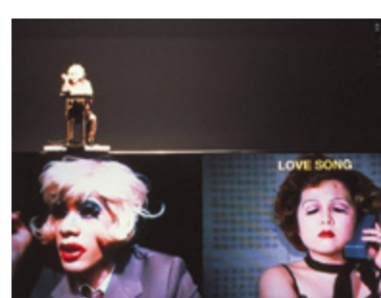
悌二さんに出会ったのは、一九八四年、京都市立芸術大学に入学した時でした。当時、悌二さんは四年生で、ダムタイプの前身である演劇サークルの中心人物の一人。私が入学した年にサークルは「ダムタイプ・シアター」と改名して活動を開始しました。

中心の演劇とは全く異なった舞台作品を作ること。一般的に演劇では、一人の演出家が決定権を持ち脚本に沿って俳優やスタッフに指示をして作品を作り上げます。けれども自分たちはそれぞれ、美術・デザイン・音楽・ダンスなどに関心のある多様な人間の集まりだったので、共通しているのは舞台上で何か新しいものを創造したいという意欲。自分たちが納得できるような舞台作品をつくるには、自分たちが納得できる方法を探み出すしかない…というわけで、誰か一人の演出家を決めるのではなく、参加メンバー全員でひ



「pH」(1990)

たすらミーティングを重ね、作品制作に没頭する日々でした。こうして卒業後も活動を続け、九十年には「pH」という作品で本格的に海外ツアーを開始しました。その頃、デンマークのアーティストと作品を制作することになり、コペンハーゲンに滞在中、体調を崩して京都で療養中だった悌二さんから、その後の私たちとダムタイプの活動に大きな影響を与えることになる「手紙」がファックスで届きました。そこには、エイズを発症したこと、自分はゲイであること、エイズに対する社会の偏見・差別と闘う用意があること、がつづられていました。「pH」に続く新たなプロ



「S/N」(1994) 撮影：福永一夫 12月3日(日)「エイズ学会市民フォーラム」にて「S/N」の記録映像上映とトークが行われます。(※詳しくは本誌2面参照)

ジェクトとして構想が始まっていた「S/N」は、そのタイトルが表すように「シグナル/ノイズ」がコンセプトの作品でしたが、悌二さんが「今回は自分にディレクションさせて欲しい」と切り出し、悌二さんを中心に、ジェンダー・セクシュアリティとエイズを主要テーマとして取り組むことになりました。作品制作に関わったメンバーひとり一人が何を考えているかを共有し、自分のジェンダー・アイデンティティに向き合い、全員でアイディアを出し合って作品作りをしました。これまで違ったのは、外部の友人たちもミーティングに参加したこと。そして、九三年、トークとパフォーマンスを組み合わせた形式の「S/N」の為にセミナー・ショーを、友人や研究者をゲストに招いて京都と藤沢で実施し、翌年のアデレード・フェスティバルで「S/N」

N」の初演を迎えました。「セミナー・ショー」でトライした様々な実験的試みの中から抽出したシーンを構成してパフォーマンスを作り上げていきました。そのように、作品を通じて世界各地の人々との対話や情報交換、ネットワーク作りが、悌二さんが求めていたことの一つだったと思います。

悌二さんは舞台上で自身がH I V陽性者であることやゲイであることをカムアウトしてました。観客はそれが演出上の架空の話なのか本当なのか、と迷っていたようですが、それが本当だとわかったときには皆一様に衝撃を受けていました。悌二さんの訃報を聞いたのは、一九九五年十月にブラジルで「S/N」の公演中のことでした。悌二さんの死後も、東京や香港、ニュージーランドなどで悌二さん不在の「S/N」を上



文●高谷史郎

1984年、京都市立芸術大学在学中に「ダムタイプ」のメンバーとして活動を始め、様々なメディアを用いたパフォーマンスやインスタレーション作品の制作に携わる。2022年、ダムタイプは坂本龍一を新メンバーに迎え、ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展・日本館で新作《2022》を展示。2023年にアーティゾン美術館(東京)で、ヴェネチア・ビエンナーレ帰国展「ダムタイプ」2022: remap」展示。2024年3月~4月、坂本龍一との舞台作品『TIME』を東京・新国立劇場およびロームシアター京都で上演予定。現在「AMBIENT KYOTO」で坂本龍一とのインスタレーション《asynchronous》を京都新聞ビル地下で展示中(12月24日まで)。

演しました。それは多くの人たちの心に強く刻まれていると思います。

悌二さんは、〈S/N〉を「闘争的創造」と捉えていました。その闘いの途中で悌二さんは倒れてしまいましたが、彼の意志を継いで活動を続ける人たちが後に続き、まだ多くの問題が解決されていないとはいえ、九〇年代の状況から劇的に好転した光景や、次世代の行動する人々たちを頼もしく思います。悌二さんの詩いた種は確実に育っているのだと思います。